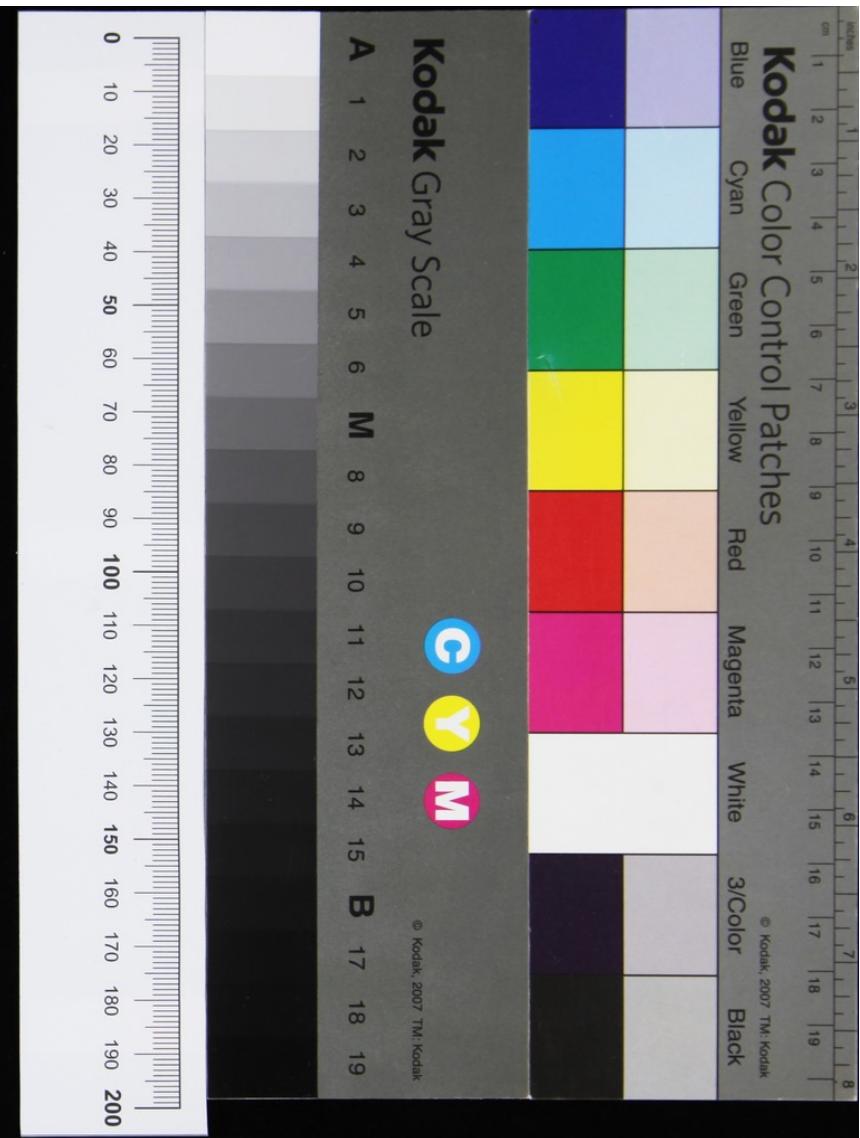
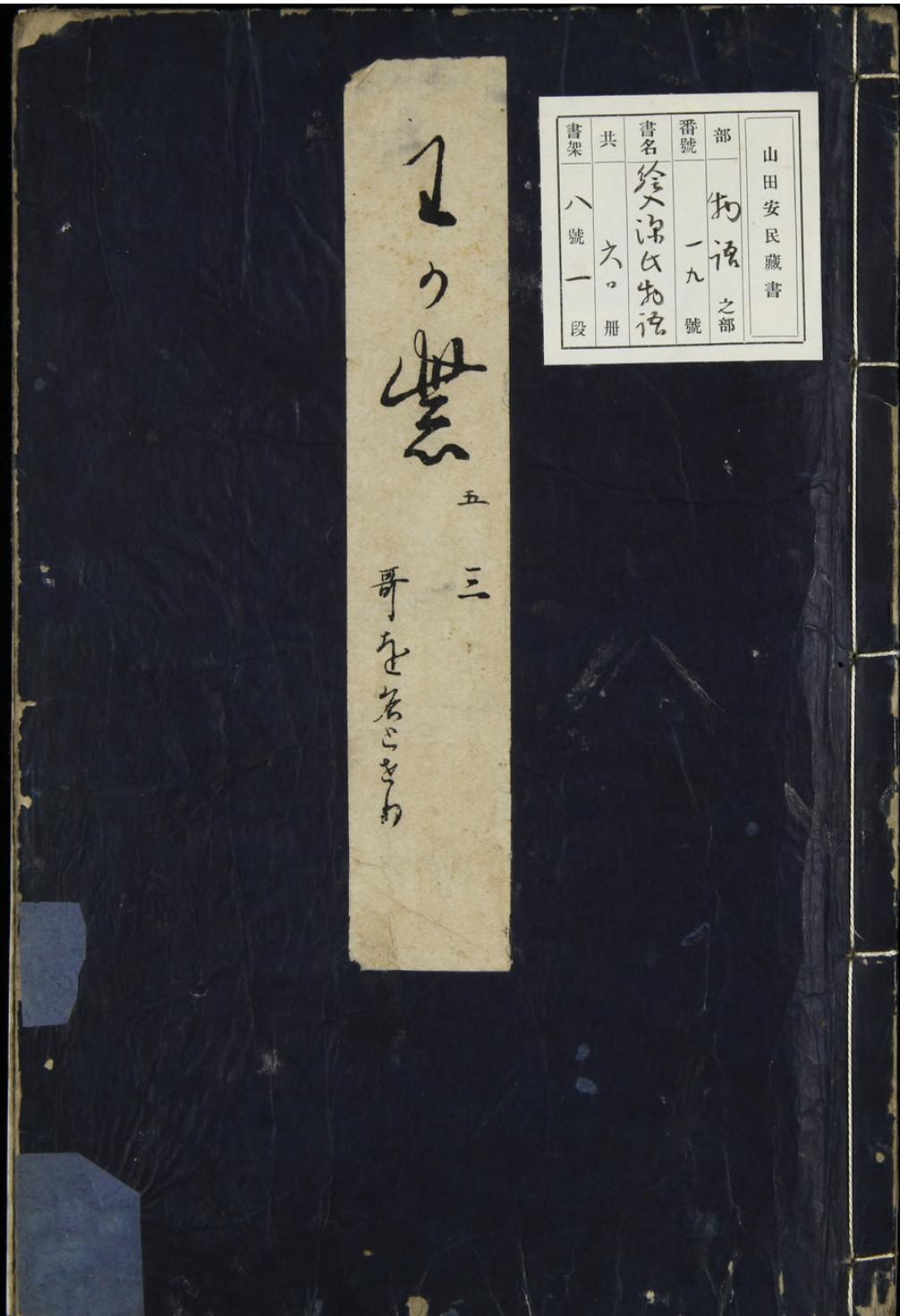


絵入源氏物語

巻五 わか紫

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館

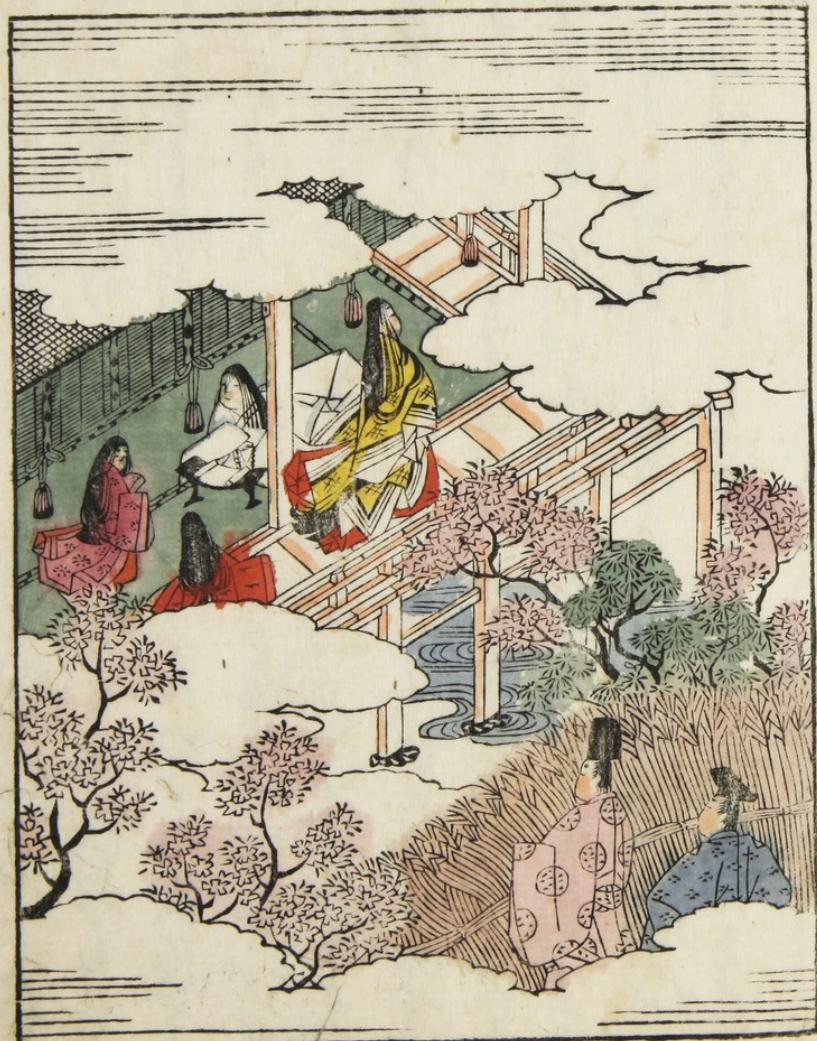


原氏十七
ワカハヤミガツヒキテムラルルヨモギ
ケドマツセタヘドモアリナシテムモアビ
トコロタクヒルレバアラヘタマニ山モチニモジ
ズモリモアシロトヨシロトモシタヒ人侍の之の夜
モトクナシテノリスヘタマナシヒテモヒヒヒトヤ
テモヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
トモヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
レバゲ^原ハモリナシモヒイ^聖セ活^通モアシモア
トモモアシテズモヤレバ^通ヒヒモモンホのビ
テモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
立人^原モモモモモモモモモモモモモモモモ



すりすり三月のつゝよりなれざるのをさり
 そされどよからぬのうへまづさうりてゆ
 めてかくすよゝむのくづみひもふりう
 さやれどうらうりぬもすくひねりばくさされ
 カうてぐううらうりぬもすくひねりばくさされ
 あくねをすくねくすくすく岩のくすくよぞひ
 トアリサムテ

人すらもべたんみゆうとりよがふはとまひへ
 ひつ日たううまいりくとんとらばへとくと
供合証
 とくまうざうせうておほにれぬえく
 あくとくうしゆればうへの山よまち歩て京の
 うとくうづくすこわうてきかの指そこ
 そくとくうづくやうれはだがよいくくよ
 ふれくうすじ心よあひのうすと
 あくうとのまくべ供証くわくゆくゆく
 人のくよをくまむけうるのまくあく
 まくせてゆくばくまくゆくくせゆ
 もくよのまくまのまくとくく
 ゆくあくまくのくよれふくろく
 ほくのくへとくへとくとありてくよま
良清証
 のくへとくへとくへとくへとくへとくへとく
 まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 まくあやくくくくくくくく
 ゆくれくよれくのくよれくのくよれくのくよ
 づくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



すくいはあられば、こもりとぬすみの
子とひきさがふ、つねにせうらうこころう
つねれど、いづらうとくらう。お居る。
おゆくわ
いづれまの心すのうわざとて、さむの
あくそくうわづるをれづるへまう
あめいじくうやくうりつるのび
すくいはあられとて、立ちてゆくゆく
うようかくやすきひとがり。おゆく
のうれいぞんぶくとみのうろみか
あを

のまがつであいかまやりふらをなすれ
 はれとがくふらすすうりのうとが
 なよともかばへとすめらるひはるは
 はるうとくとつねよみゆばせんと
 しやとりがいわうづつまつらうと
 そきのわううらういもけくわうや
 そひいつまじいじうまく
 ゆく風ゆくとくれとめくらはざう
 とく心をつアゆひとくいとく
 あねがまくとくとくとくとくとく
 あまくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとく

す扇子をそぞんとさかづきあひうちられけ

よとく地ぢへよこ

お酒さけ

か納な云

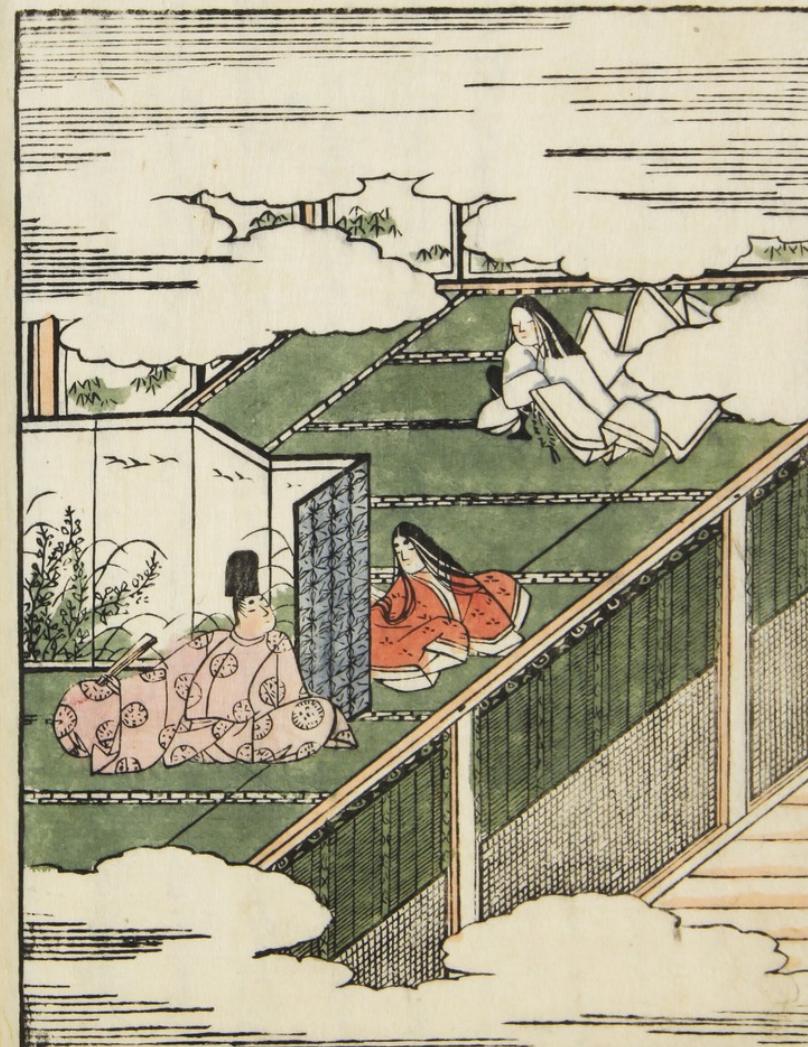
おのれいまだちひり未まもとあまよいぐり
まのそんとすんとすやう行ゆびうげあく
もううききじくきあくもくやゆくゆくもくく
傍拾わき詞
まらくまうけられみうれいじやのくよ
源氏げんじのゆのわやこよだらひよもくくお
けふふよますくつまゆらうふのび
筋つなれれえちうゆゆでごくゆうゆうばくくれ
らひよまうてどりけとのくへあくいい
ややあやちくくとくやうくとくされ
いうげこのせのうり路じひう源氏げんじる
はうよまくまくまくややはすすう
ほーのくちよのくせのくわへすれ
くひのう人のにくくのくくのくく
アモトモトとすれはばうりうひめめあく
よくをうれられくれくれすすとく
もく行ゆりととのとてくくうまくくくを
もくくくくくくくくくくくくくくく
のほうすくとくとくとくとくとくとくと
いとくいとくいとくいとくいとくいとく
人のほうりよありくのくくのくくのくくのくく

あはうつあはうつあへ引く僧船の時
 てす惟光寺へひそまほむるも前かねばまよ
 やうてまて船（傍訛）をりおうまくりうへと今
 ちん今すよらどうまくわくまくわくま
 グ、えがくありけらと、おうへりやくす。
 えびをくくふと、うれしくさひきへと、
 いきのゆびへくま、おぞくまくまくけゆくべ
 うれしういきまくまく、いめう十日乃
 はとくわくやまくわく、いわきくまくわく
 てくぐりゆれびのゆへのまくにまく
 あくまくじくまくまく、おうへりくわく
 おうへりくわく、おうへりくわく
 おうへりくわく、おうへりくわく
 おうへりくわく、おうへりくわく
 おうへりくわく、おうへりくわく
 おうへりくわく、おうへりくわく

京よりまことにわざとおもろこしりて
 われし給たりとす。既に既に大納言のまじます
 やしりよみくらへばすくくとよる
 よあつて（信向）まやうアヤウカラトシテ
 のまへじすまへひとうゆ。さきてうすよ
 年（年）やからゆくん故大酒会はうちます
 えんかくうそいつまゆとそはめ
 そむれしゆですぎゆばさじあま
 ひきりよあひゆはどまびうり人の
 カゞよ（意匠）のえくとびてくわひつまゆ
 うけくわせんおのるゆん
 やすくのうりゆくてありけれとちひて
 なく（信向）侍す。わらひよやまひてわとめよら
 くまくらなどかふほんばされこすりうりと
 有り。河をまく。これすぢよてれ人よと
 くまくらまくらまくらとく。あられよまくら
 いく人の程（度）もあてより。申くのまくら
 心なくうらうらして心のまくらへる。し
 まくらばやとめす（信向）おれよわくまくら
 され。それへとくめぬくともなまくらとおまれ
 つか。小りゆくにまくらをゆがされも

うへてまわすやうすやうへとどむ。夜
 くわくわくけよる。じゆよも人のねのけよる。
 くわくわくびよれど。ばのけよくよひよる
 くわくわくはのくわく。がくわくよくよく
 くわくわくよくよくよくよくよくよく
 くわくわくよくよくよくよくよくよくよく
 くわくわくよくよくよくよくよくよくよく
 くわくわくよくよくよくよくよくよくよく
 くわくわくよくよくよくよくよくよくよく
 ひくわくあけてあふまばく。うへばく。
 うらすべあれど。うへく。ゆやうくとてゐ
 まうせりひくあき。うへく。ゆくとてあやひく
 みくわくやとくわくとくわくとくわくとく
 のくわくわくのくわくわくのくわくわくのく
 んくはづくもく。うへく。ゆくとてのく
 うへくよくよく。うへく。ゆくとてのく
 けくわくとくわくとくわくとくわくとく
 ほくわくとくわくとくわくとくわくとく
 ねの袖も病む。うへく。ゆくとてのく
 ものく

ようのゆきうさく。うけりやくさん
 のぬくめの風。うめうめうげあくは
 とれよふたまうる。原田のびくさくやうけりう
 ひうてゆうなと。さひをくわくへととのゆく
 うりてうるゆ。阿かくすのめ。たまやよがひく
 うくよおとすかくをねばすん。うくよく
 わくよくはいと。ういきくよくと。うく
 あやくよく。うくよく。うくよく。うく
 うくよく。
 尾



ととてくぐりへらるゝ事す人めべき
 れをかきよじてひあたるとゆゑや
 細くつまうてくさんあやへきあひと
 とれりへよす人を約どいしまつまつ
 ひをまはどもてくさんしゆうさるの侍
 まよれどえすくうけまくわゆれ
 けふのよほれればつをうづくまつま
 めばくわきあがくことくわくでなまひま
 まう面とまう心のほどとまんざしてまご
 まくどくよげかまくとまくまでのまく
 まくてくわくくわくへまく。僧^ブがおく
 めれ僧^ブくまくらくまくらまく
 くちんとくまくらくまくらまく
 普^ビ陀^ト地^ジ曉^{アサ}よみれば法花
 三昧^{ミマ}をくふくうの懺法^{カシガ}のくふくうの懺法^{カシガ}
 くわくくわくくわくくわくくわく
 くわくくわくくわくくわくくわく
 くわくくわくくわくくわくくわく
 くわくくわくくわくくわくくわく

はくまくのくわく
 ほくまくのくわく
 神のけり山木よすみの門
 さくさくやすみすくわくめりやとくまくのよ
 明ゆきをひくにくわく産^ムてしのくりがもくは
 くくくすくわくづくわくづくわくのよすみのよ
 くくくすくわくづくわくづくわくのよすみのよ

原
あらわすやうなまゝの山楊(ヤマヒバ)の木の下に
さくらんぼの木がある。



めそれのうをもううれと。うらうとみて。
 ありうじ。アハ内内もうよどこよどてまり。僧都
 圣德太子のうきうきえううけ。うんぐ。
 のすの。風のううごく。うやぐとそれく
 ううれううく。ううく。ううく。ううく。
 よりて。火祭の役よつけ。らんやりのつ。やせよ。
 れくすり。うりて。夜ううか。よつと。ううく
 よつと。はううと。ううと。ううと。ううと。

アハ

あはひトアリテカジタツメノ事。
あうけのまへども無くようよはうくと
えがきわらのやまびきをさくべと
くまひばす煙をみてお詫びよシビヘキ
れまくとてお詫びよシビヘキ
かくもだいまいきまくとてお詫びよシ
ざうば今又年とすくとてお詫びよシ
ひとのまじきとされし敵とのあは
いとわすくとてお詫びよシビヘキ
あらはるわ

タラぐれほのまきの色

のうらうそわづふゆ

凡

ゆきの雪後とておもむくとておうてのゆきと
すくとておもむくとておうてのゆきと
大風うねりけりとておうておうにげつと
とておじ人の人びと進むとておうと
風中ねた中キ。おもむくとておうと
やうのゆきとておうとおもむくとておうと
とておうとおもむくとておうと根をとて
おうとおもむくとておうと根をとて
おうとおもむくとておうと根をとて

尼ふ
のうか

卷之三

えんとわびての内とぞよし
めのうらひをかみせへ
くまのうらひをかみせへ
うらひをかみせへ

あくづかのへの橋らへぬよとまわとせん

らうやうの後もすこりぬく風を心に

وَلِمَنْدَلْتَهُ وَلِمَنْدَلْتَهُ

此處あるを傍若も無く取り立てるより納ま

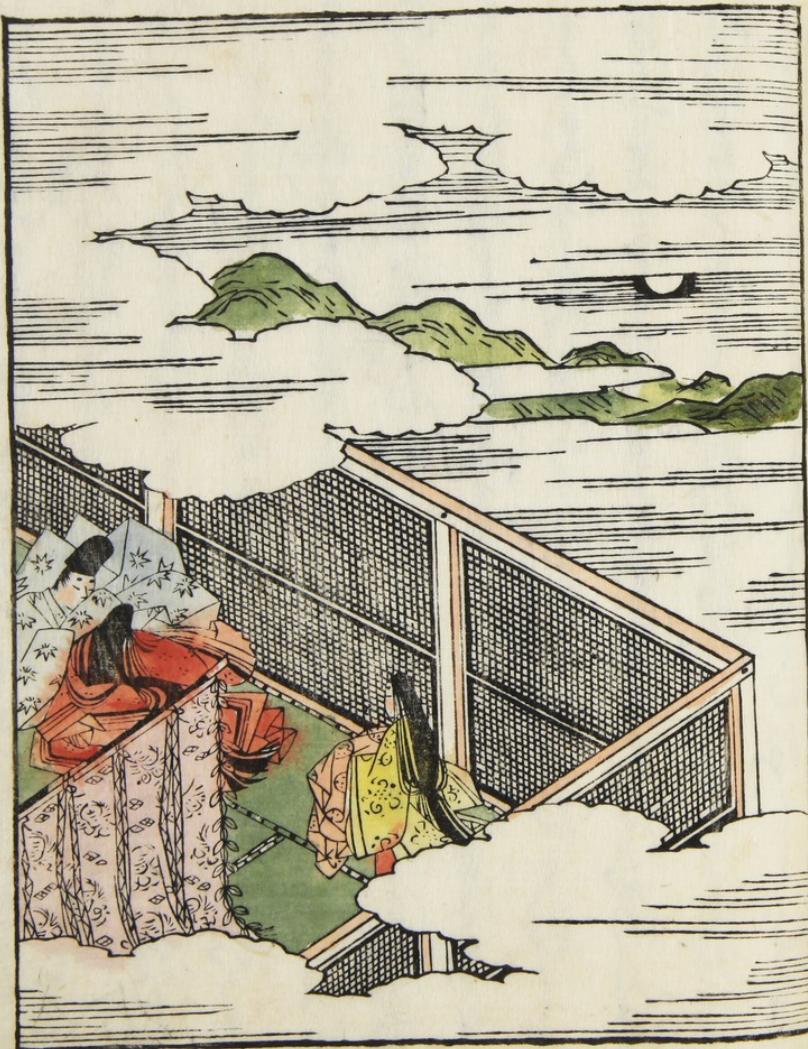
よおひのむかわくとくにばらう

人之子也。故曰：「父母之言，子之口也。」

卷之三

まことにそれぢやうかんがほとくまほし
その中のうる

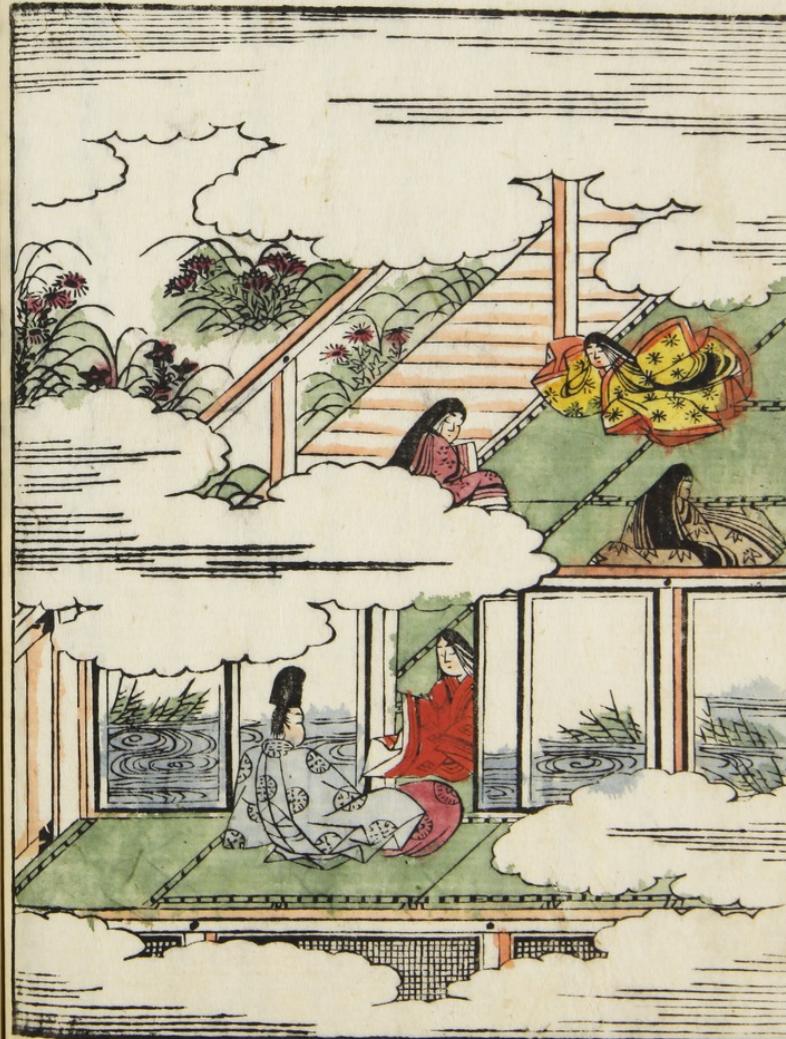
あらうとある人のをかぶるやうなふの
のうけよとんばくへ



てはあらびよりやうくひ。こうされば源氏乃
 ちもあらまことかくへり。てはとくえなど
 きぬくよつまくとくよ。いづりうつみのくど
 とのびくよくうく。されもくよくうりく。えも
 えすぐくよくとく。されもくよくうりく。原
尾
 きりうれやまとくのへんうく。うそで宿す
 うれ。おのやすくよく。のんごくのんせうそこ
 そくとあり。からく。のぬくのこあつとくわく。
 それほじうをみかく。アキラカくよめざひ
 そくくよくとせき。おのまつに。おのまつに
 ほなみてうき。くよく。おのまつに。おのまつに
 うちくくよく。くよく。おのまつに。おのまつに
 うくよく。うくよく。おのまつに。おのまつに
 家のくよく。くよく。おのまつに。おのまつに
 例のくよく。くよく。おのまつに。おのまつに
 大納言のくよく。くよく。おのまつに。おのまつに
 修くよく。あまく。くよく。おのまつに。おのまつに
 じくよく。おのまつに。おのまつに。おのまつに
 あく。あれのくよく。くよく。おのまつに。おのまつに
 んとくよく。おのまつに。おのまつに。おのまつに
 うべくよく。くよく。おのまつに。おのまつに

御よりひけりの邊の名前

十月の紫萱院の御草あくべしよりひんちうや
 やくじゆくよき家のこども上達教養上ぐくよ
 すよくもぞれよつさぐくへとほされえよ
 きよくれじよそとすらだほりそじめでよう
 どりのよそとよそとひよけます。ほんざくびと
 まひうそとづれぬひざうけふらばく
 おとすりそとづれぬひざうけのぬま
 のこわいよおむのせのせのほどなをんじぬ
 すかくもくよくして。おれのじうつとおれ
 ひよふるをあくべみよ。せ津乃
 おれのとおうしろのうげよくへり。お





うておまかせありておまかせのうち
 あつまつめあるのあつまつめすとぞもね
 くわざにいざなひておまかせのうち
 なむひて今まかせをくわざひまけひと
 ばすまかせをくわざくわざくわざくわ
 はくわざでれのやうすあくびほりすびる
 そそくわざくわざくわざくわざくわ
 そんとくわざくわざくわざくわざくわ
 まのれとくわざくわざくわざくわざく
 くわざくわざくわざくわざくわざく
 わくわくわくわくわくわくわくわく
 うれそでまかせうあくびなまくわく
 うづけがまかせくわくのまかせうづけ
 うれそくわくのまかせうづけくわくの
 うづけくわくのまかせうづけくわくの
 うづけくわくのまかせうづけくわくの
 うづけくわくのまかせうづけくわくの
 うづけくわくのまかせうづけくわくの
 うづけくわくのまかせうづけくわくの

そればかりでなく、人ひどりま
 されよとこのまゝへばか雲アカクラあくとく
 て、アカハヤマびんぐくをんゆべ、アカのやくせ
 おもむほじの風アキラカよう風アキラカくわく
 は、アカてうきへく、おうまく、アカくわく
 すと、アカくわくやりよそは、アカのこよけ
 のらすも、アカまつすくと、アカ車アカを
 まわすやうく、アカて、アカがぬアカれぞ
 のりめ、アカ二条院アカから、アカくわく
 あくとよのひよく、アカて、アカくわく
 がぬアカとすと、アカのうのうら、アカくわく
 一歩アカくわくと、アカとやすへど、アカは、アカ
 すと、アカは、アカと、アカの路アカ、アカ
 おりぬよと、アカと、アカの路アカ、アカ
 のらむの路アカ、アカと、アカの路アカ、アカ
 おとづれて、アカと、アカの路アカ、アカ

まやしのじゆんとおこなひます
かみといなれがいはくすりうれし
りてば松の年月をあらへもとをき
れ事のひびひさうをまなぶ
てうふくらすあれじひんぐのひうす
とのねためうつうておもとまとうぬ
わうまにそくつて、いとすくまなんと
あくれまくとすくとくとえなまく
くすが納まが海よりんとのくふくわ
いまはまむとせざまくまくまくまく
とくじらむかれすまくまくまくまく
あまゆくまくまくまくまくまくまく
とくひの海よりんのすかまくまく
うねるやううて、やくこくす
くまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
くりうのまくまくまくまくまくまく
とまうけ、人じくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく

アラシタガムカニの事

まことに年の中りあらわしもく
きと何れぞおはなしまづくらげまづくらげのうが

なよそくまくらげれがうらゆゑとて。

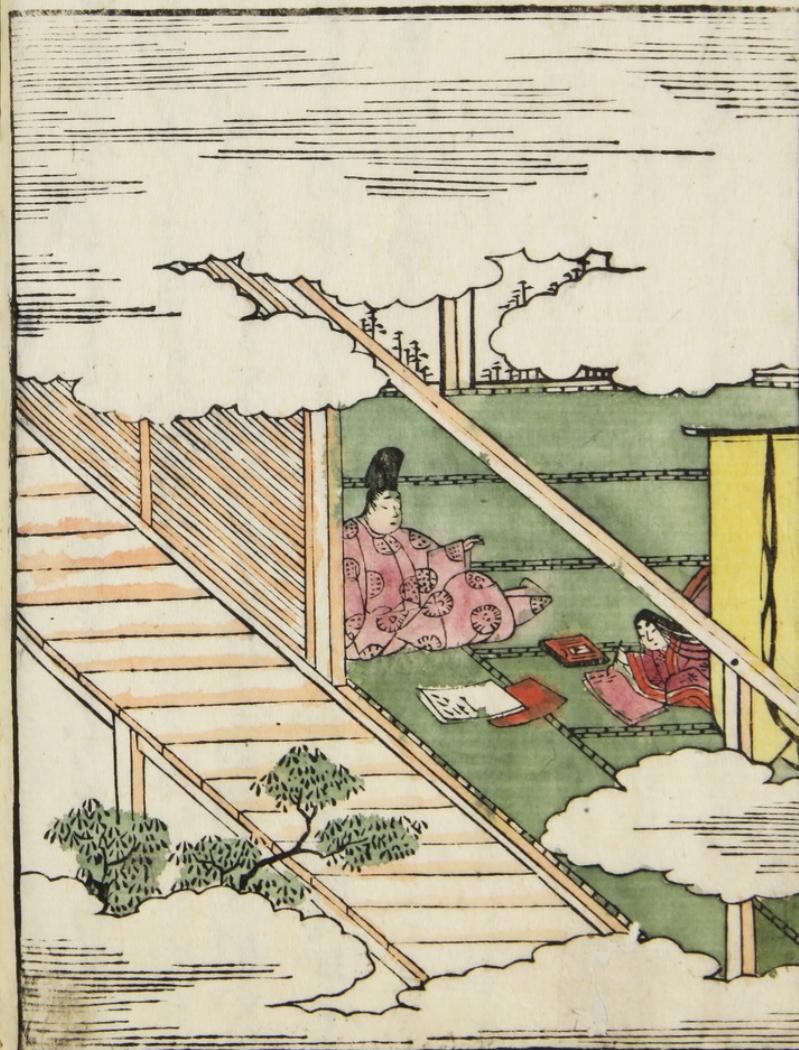
えんじとひのきの合葉
紫

のをあはゆれどもうるさくあらへと
葉内

原
源
流
考
證

卷之三

こおまむる五事を考へりけりよめ
ひみかくどりやまとつうりてけくもうを
さあそびつゝとくにあらわすひのまくは
一ぱり。紫室シミツム
とくのまくはしけくよとくにやくんはだく
てぞうびあくりけふ。一ぐくはなはせど
ゆきものゆくも細サクをえふくもなればまくはく
がくやくはんべゆくもとくばが細サクがくで
くくまくはくとくのまくはくすりよどく
くくまくはくとくのまくはくすりよどく



かくすりうり。まくらめりうねくれとひ
しとすりゆうすりめれがわがひらす
かの出くやとひきれぐもじとくらむの
あそびくらじすのうどりよすりめ
よくらやすくらすくらすくらすくら
くらくらくらくらくらくらくらくら

ぱいりうり

